

山口情報芸術センター [YCAM] イベント

鎖国[Walled Garden] プロジェクト

ローレン・リー・マッカーシー+カイル・マクドナルド新作パフォーマンス

アンラーニング・ランゲージ YCAMとのコラボレーション

2022年11月12日(土)～2023年1月29日(日)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

AI (人工知能) と人間はどう違う？

パフォーマンスを通じてテクノロジーと人間の関係性の未来を考える

山口情報芸術センター [YCAM] では、アメリカを拠点に活躍するアーティスト、ローレン・リー・マッカーシーとカイル・マクドナルドとYCAMによる新作パフォーマンス「アンラーニング・ランゲージ」を発表します。

YCAMは、2020年から情報とインターネットの未来を探る研究開発プロジェクト「鎖国 [Walled Garden] プロジェクト」を、研究者などの専門家とともに進めてきました。今回の公演は3年に渡るこのプロジェクトの成果として開催するもので、今回発表する新作は、「AI (人工知能) にはない人間の資質とはなにか？」というテーマを探求する観客体験型パフォーマンス作品です。作中にはAIが登場し、観客にさまざまな問いを投げかけ、観客はAIに対応していく過程で人間とマシンの違いについて、考えを深めていきます。本公演では作品に関連してインターネットやAIの今日的状況に触れる展示やトークイベントも多数開催します。

AIやネットワーク技術が発達し、無意識にそれらに囲まれた生活を送る今日における、人間性が優先されるAIやテクノロジーについてのビジョンの一端が垣間見えるでしょう。ぜひご参加ください。



2022年7月に開催した「バックステージツアー」の様子
(撮影：谷康弘)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7

TEL：083-901-2222 メールアドレス：press@ycam.jp ウェブサイト：www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

国際的に活躍するアーティストとYCAMのコラボレーション



ローレン・リー・マッカーシー《The Changing Room》2021年

YCAMにおける、展覧会や映画上映と並ぶ活動の柱が、ダンスや演劇などのパフォーマンス・アーツ作品の上演です。開館以来、国内外の優れたパフォーマンス・アーツ作品を紹介するとともに、野村萬斎や安藤洋子、イスラエル・ガルバンといったアーティストと協働しながらメディア・テクノロジーを応用した新作の制作・発表を多数おこなってきました。本公演では、アメリカ・ロサンゼルスを拠点に活躍するアーティスト、**ローレン・リー・マッカーシー**と**カイル・マクドナルド**による新作を発表します。

マッカーシーとマクドナルドは、いずれもコード（コンピュータープログラム）を表現方法として用いるアーティストです。高度情報化社会を批評的に捉える映像作品やインスタレーション作品、パフォーマンス作品を多数発表しており、それらは世界各地の美術館や、国際的なアートフェスティバルなどで展示・上演され、高い評価を受けています。また二人は作品制作と並行して、多様な人々がコードを用いた表現に触れ、学ぶためのツールの開発も精力的におこなっていることでも知られています。開発したツールは、表現に携わる人々だけに留まらず、世界各地の教育現場でも用いられるなど大きな広がりを見せています。

今回、本公演のために、マッカーシーとマクドナルドは、1年以上に渡ってYCAMとコラボレーションを展開。新作のパフォーマンス作品《アンラーニング・ランゲージ》を制作しました。本作は世界初の公開となります。

■ ローレン・リー・マッカーシー

監視、自動化、アルゴリズム化された生活の中での社会的関係を考察するアーティスト。「SOMEONE」でアルスエレクトロニカのゴールデン・ニカ賞と文化庁メディア芸術祭ソーシャルインパクト賞、「LAUREN」でIDFA DocLab Award for Immersive Non-Fictionを受賞。彼女の作品は、Barbican Centre、Haus der elektronischen Künste、SIGGRAPH、Onassis Cultural Center、IDFA DocLab、Science Gallery Dublin、Seoul Museum of Artなどで国際的に展示されてきた。UCLAで修士号を取得、MITでコンピュータサイエンスとアート&デザインの学士号を取得。またオンラインでコードによる創造的な表現を学ぶためのオープンソースプログラミング言語「p5.js」のクリエイターでもある。UCLAデザイン・メディア・アーツ准教授。

■ カイル・マクドナルド

コードを用いて作品を制作するアーティスト。「openFrameworks」のようなアートとエンジニアリングのオープンソース・ツールキットの貢献者であり、アーティストたちが新しいアルゴリズムを創造的に利用するためのツールを開発している。

アイデアや計画を完成前に公開し、共有する手法を採用しており、ネットワーク・コミュニケーションと演算をクリエイティブに覆し、グリッチや構造的なバイアスを探り出し、これらの概念を拡張して、アイデンティティから関係性まであらゆるものごとを転倒させるような作品を生み出している。またコンピュータービジョンとインタラクションを探索するワークショップも頻繁に企画している。

2011年にYCAMが実施した滞在研究プログラム「Guest Research Project vol.1」に参加し、プロジェクトマッピングを容易におこなえるようにするソフトウェア群「ProCamToolkit」を開発した。

完全なマシンと不完全な私たち



2022年7月に開催した「バックステージツアー」の様子
(撮影：谷康弘)

《アンラーニング・ランゲージ》は、「AIにはない人間の資質とはなにか？」というテーマを探求する観客体験型のパフォーマンス作品です。

テクノロジーの発展により私たちは、個人の嗜好やライフスタイルに沿ったAIのアシストを受けられるようになりましたが、その背景にはインターネットを通じて私たちの活動を収集、分析し、次の行動を予測する巨大なシステムがあります。本作では、この状況に光を当てていきます。

作品空間に、観客が足を踏み入れると、AIによってある実験への参加を促されます。観客は、語りかけてくるAIに対して、観客同士がコミュニケーションをとりながら応えていきます。この時、AIは観客の表情、言葉、身体の動きをカメラやマイクを通して検出、分析しようとします。もしAIがそれらを認識すると、表情を見分けられないような激しい光、話し声が聞こえなくなるような大音響を発生させることで妨害します。こうした状況下で観客同士がやり取りを続けるためには、拍手やハミング、普段使わないような動作といった、AIに認識されにくいコミュニケーションの手段を他の観客とともに見つける必要があります。

本作は、こうしたざこちなく、時に楽しいコミュニケーションを通して、人間とマシンの違いを見出す場であり、また、現在の私たちの生活の利便性を支えるテクノロジーの背景にあるシステムを振り返り、人間性が優先されるAIやテクノロジーとはどのようなものか、問いかけるものです。

インターネットと情報の未来を考えるためのプラットフォーム



「私はネットでできている？」2021年
(撮影：ヨシガカズマ)

本作の基盤となったYCAMの研究開発プロジェクト「鎖国 [Walled Garden] プロジェクト」は、インターネットがライフラインのひとつに位置付けられる現代において、多くの人たちが少なからず違和感や不安を感じる、私たちの個人データやプライバシーの取り扱い方について探求してきました。

その過程で、トピックのひとつとして「**監視資本主義**」を取り上げ、2021年にはカイル・マクドナルドとともにワークショップ「私はネットでできている？」を開発しました。私たちが日々やり取りしているメール、SNSへの投稿、検索といったウェブ上の活動は、私たちユーザーに「最適化」した情報を提供するために、サービスを提供する企業側から追跡され、分析されています。もしかすると企業の方が私たち以上に、私たちのことをよく知っているのかもしれませんが。こうした状況を俯瞰的に描き出し、情報の未来について議論するこのワークショップは本作の制作へとつながっています。

本公演では、作品の上演のほかに、プロジェクトのこれまでの取り組みを紹介する展示や、ドイツ・ベルリンを拠点に活動しているアーティストグループ、**ザ・クリティカル・エンジニアリング・ワーキング・グループ**のインスタレーション作品《アンインテンドット・エミッションズ》の展示をおこないます。またインターネットやAIなど、現在のテクノロジーの状況に対して多角的な視点を得るための上映やトークイベント、ワークショップなども多数開催。情報とインターネットの未来についての意見を共有し、議論するプラットフォームを創出します。

■ 監視資本主義

2019年に、社会心理学者で哲学者のショシャナ・ズボフ（ハーバード大学名誉教授）が、同名の著書（邦訳：「監視資本主義：人類の未来を賭けた闘い」／翻訳：野中香方子／東洋経済新報社）で提唱した「Surveillance Capitalism」を指す。ズボフは、ユーザーのネット上での活動を原材料に、AIによってユーザーの行動予測をおこない、そのデータを提供することで、それに沿った商品やサービスを販売する企業からの対価を得る経済のシステムについて分析し、そうした環境下における人間の自由意志や民主主義の危機に警鐘を鳴らした。

■ ザ・クリティカル・エンジニアリング・ワーキング・グループ

2011年、アーティストでエンジニアであるジュリアン・オリバー、ゴードン・サヴィシッチ、ダーニャ・ヴァシリエフが「クリティカル・エンジニアリング・マニフェスト」を発表。

この宣言を中心に、サラ・グラント、ベンクト・ショーレン、ジョアナ・モールが参加し、「クリティカル・エンジニアリング・ワーキンググループ」が結成された。

「現代において私達の考え方・話し方・生き方を形づくる上で、エンジニアリングこそが最も影響力のある言語だと考える」で始まるこのマニフェストは、「批評的なエンジニアリング」の規範について多くのことを示唆する。

開催概要

鎖国 [Walled Garden] プロジェクト
ローレン・リー・マッカーシー+カイル・マクドナルド
新作パフォーマンス
アンラーニング・ランゲージ YCAMとのコラボレーション

2022年11月12日(土)～2023年1月29日(日)
[土日祝日] 10:30 / 11:00 / 11:30 / 12:00 / 12:30 / 13:00 /
13:30 / 14:00 / 14:30 / 15:00 / 15:30 / 16:00 / 16:30 /
17:00 / 17:30

[平日] 12:30 / 13:30 / 14:30

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

休館日:火曜日

要チケット購入(当日券のみ) 各回入れ替え制

対象年齢:10歳以上 定員:2～7人/1回

暗転や激しく明滅する光、大音量の音といった演出があります
鑑賞のサポートの一環として、観客の作品体験の様子を撮影、記録しています
11月12日のみ15時からの開催となります

主催:公益財団法人山口市文化振興財団、公益社団法人全国公立文化施設協会
後援:山口市、山口市教育委員会、ゲート・インスティテュート
助成:文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)
協力:ライゾマティクス、BACKSPACE Productions Inc.、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター
共同開発:YCAM InterLab
企画制作:山口情報芸術センター [YCAM]

『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう2』参加事業

開催直前イベント

関連上映

10月29日(土)～30日(日)、11月2日(水)～4日(金)

会場:スタジオC 要チケット購入(当日券のみ)

本作の関連映画として「シチズンフォー スノーデンの暴露」(2014年)を上
映します。

※上映スケジュールやチケット料金などはYCAMのウェブサイトをご覧ください。そのほかにも特集上
映を予定しています。

トークイベント

デジタル監視は社会をどう変えるのか スノーデンの告発から考える

2022年10月30日(日) 12:30～14:00

会場:スタジオC 参加無料

登壇:小笠原みどり(ジャーナリスト、社会学者) ※オンライン登壇

トークイベント

アンラーニング・ランゲージ公開直前! おすすめ映画

2022年11月3日(木・祝) 14:55～15:25

会場:スタジオC 参加無料

登壇:今野恵菜(YCAM)

■ チケット情報

チケット料金 [全席自由]:

当日	
一般	500円
any 会員 / 25歳以下 / 障がいを持つ方及 び同行の介護者1名	無料

※チケット料金は当日会場での精算となり
ます

※各日会場で整理券を配布し、空いている
開演時間枠へご案内いたします

※11月12日～13日、12月3日～4日、1
月28日～29日のみ、先着順で事前予約
を9月21日(水)より承ります(詳細は
ウェブサイトをご確認ください)

関連イベント

関連展示1

「鎖国 [Walled Garden] プロジェクト」アーカイブ展示

11月12日(土)～2023年1月29日(日) 10:00～19:00

※11月12日(土)、13日(日)のみ20:00まで開催時間を延長

※トークイベント開催時はご覧いただけません

会場：ホワイエ、2階ギャラリー 入場無料

「鎖国[Walled Garden]プロジェクト」で開発したワークショップや、「アンラーニング・ランゲージ」につながるトピックのひとつ「監視資本主義」について紹介します。このほか特別オンライン企画として文筆家、木澤佐登志による「木澤佐登志のワクワクどうぶつ占い」も実施します。

オープニングパフォーマンス

11月12日(土) 13:00開演

会場：スタジオB 鑑賞無料(要申込)

出演：荒木知佳、長沼航(ヌトミック、散策者)、福留麻里、宮崎萌美(劇団シバイヌ)

トークイベント

クリティカル・エンジニアリングとは

11月12日(土) 17:00～19:00

会場：ホワイエ 参加無料(要申込)

登壇：ダーニャ・バシリエフ、ベント・ショーレン(いずれもザ・クリティカル・エンジニアリング・ワーキング・グループ)、三浦陽平(YCAM) ※日英逐次通訳あり

トークイベント

ことばのラーニングとアンラーニング 人とAIはどう違うのか

12月4日(日) 14:00～15:30

会場：ホワイエ 参加無料(要申込)

登壇：川添愛(言語学者、作家)

ワークショップ

ネットにくらす、わたしのひみつ

11月23日(水)、12月10日(土)、12月11日(日)

2023年1月21日(土)、1月22日(日) 各回13:00～16:00

会場：インターネット 参加無料(要申込)

ナビゲーター：山岡大地、今野恵菜、原泉(いずれもYCAM)

クロージングトーク

監視資本主義のその先へーインターネットの未来

2023年1月28日(土) 13:00～15:00

会場：ホワイエ(※配信あり) 参加無料(要申込)

登壇：スリヤ・マトウ(アーティスト、エンジニア、ジャーナリスト)、チェ・テユン(アーティスト、エドゥケーター、オーガナイザー) ※いずれもオンライン登壇

関連展示2

ザ・クリティカル・エンジニアリング・ワーキング・グループ インスタレーション
アンインテンドット・エミSSIONズ

※開催概要は左に同じ

スマートフォンなどのモバイルデバイスに付属するWi-Fiの「自動サーチ機能」を利用して、自動的に共有されるユーザーデータを分析、可視化するインスタレーションを展示します。

オープニングトーク

マシンと見る・聴く

11月12日(土) 14:00～16:00

会場：ホワイエ 参加無料(要申込)

登壇：ドミニク・チェン(情報学研究者)、ローレン・リー・マッカーシー、カイル・マクドナルド ※日英逐次通訳あり

トークイベント

日本のインターネットの変遷といま

12月3日(土) 14:00～15:30

会場：ホワイエ 参加無料(要申込)

登壇：さやわか(評論家、漫画原作者)

サンカクトーク

11月13日(日)、12月3日(土)、12月4日(日)

2023年1月29日(日) 各回16:00～18:00

会場：ホワイエ 参加無料(要申込)

ナビゲーター：山岡大地、今野恵菜、原泉(いずれもYCAM)

ギャラリーツアー

11月27日(日)、2023年1月28日(土) 各回16:00～16:40

会場：ホワイエ

ナビゲーター：山岡大地、今野恵菜、原泉、三浦陽平(いずれもYCAM)

■ 申込方法

ウェブサイト：

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

www.ycam.jp